

令和7年度 学校教育自己診断 結果について（報告）

1 実施概要

- (1) 回答期間 令和7年11月20日～12月3日
- (2) 対象 保護者、児童生徒、教職員
※児童生徒は今年度より全員を対象
- (3) 実施方法 Forms（Microsoft）にて回答、集計
- (4) 診断内容 大阪府教育庁からの必須項目と本校の教育活動の点検。
※設問が前年度より分かりやすくなるように、文言を見直したり、他校の学校教育自己診断の内容を参考にしたりしながら診断内容を決定。
※今年度より児童生徒は「大阪府教育振興企画基本計画 前期事業計画に基づく意識調査」を同時に実施。
- (5) 回答選択 A：よくあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない
D：あてはまらない E：わからない の5項目
※児童生徒用には、回答が難しい場合を想定し、「F：未回答」の回答項目を設ける。
- (6) 回答数（回収率）

学部	保護者	教職員	児童生徒
小学部	32名（47.1%） ※回収率前年比⇒-20.6%	30名（100%） ※回収率前年比⇒+22.6%	67名（98.5%）
中学部	43名（46.7%） ※回収率前年比⇒-11.5%	32名（100%） ※回収率前年比⇒+18.9%	80名（87.0%）
高等部	55名（41.7%） ※回収率前年比⇒-12.1%	50名（100%） ※回収率前年比⇒+13.7%	119名（90.2%）
全学部	130名（44.5%） ※回収率前年比⇒-13.8%	122名（100%） 担任外含む ※回収率前年比⇒+20.3%	266名（91.1%）

※保護者の回収率が過半数を割り、前年度より回収率が大きく低下した。

低下した要因としては、今年度より「学校教育自己診断の案内」を紙面でのお便りではなく、学校安心メールに回答フォームのURLを添付して連絡を実施したが、受信メールが見逃されている可能性が考えられる。回答期間の前半で回収率が伸びていない状況もあり、締切日の5日前にも学校安心メールにて再度アナウンスを行ったが、回収率を伸ばすことはできなかった。次年度は診断結果の精度や有意性を高めるために、実施期間内にある「東淀川まつり」開催中に回答フォームのQRコードを校内に掲示し、保護者への回答を促していきたい。

※教職員は職員室のチェックシートを掲示することにより、100%の回収ができた。

※児童生徒の回答は各クラスで実施し、クラス担任が回答者の把握を行った。不登校等で回答期間に実施できなかった児童生徒を対象に、12月23日までの期間を設けて家庭訪問等で実施し、15件の回答があった。

(7) 分析方法

全アンケートの中で、肯定的回答（Aよくあてはまる・Bあてはまる）の割合が80%未満かつ、否定的回答（Cあまりあてはまらない・Dあてはまらない）の割合が10%以上の項目と、前年度より数値が20%の変動が見られた項目について分析した。

2 分析

(1) 保護者

・診断内容全項目の平均で82%（前年度84%）の肯定的回答を得られたことは評価できるが、前年度より肯定的回答が少し下がっていることと否定的回答や「わからない」といった回答が意味することを考察し、学校教育の改善や向上をさらに進めていきたい。

○肯定的回答（Aよくあてはまる・Bあてはまる）が80.0%未満で、否定的回答（Cあまりあてはまらない・Dあてはまらない）が10.0%以上の項目が5項目（②⑫⑬⑭⑯）あった。

○前年度より20%の変動が見られた項目はなかった。

番号	診断内容	分析・今後の取り組み
②	子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。または、楽しそうな様子が見られる。	肯定的（77%）、否定的（13%）、わからない（11%） ⇒前年度肯定的（73%） 子どもたちが「わかる」授業を展開していくために、今まで以上に教員間で児童生徒の学習状況を共有し、発問や教材の提示などに取り組んでいく必要がある。教員の授業力向上に向けて授業見学や授業研究を進めていく。また授業での児童生徒の学習状況について保護者に丁寧にお伝えしていく。
⑫	学校は、将来の進路について適切な指導を行っている。	肯定的（68%）、否定的（15%）、わからない（18%） ※今年度からの新規内容 小学部の肯定的回答が56%だったが、「わからない」の回答も44%が示され、保護者に対して進路指導の状況についての説明が不十分であると考えられる。小学部では仕事や将来に向けて「当番」や「係」などの役割を日頃から取り組んでおり、その様子について保護者に丁寧にお伝えしていく。また、全学部においても適切な指導を行い、各学部間のつながりを意識したキャリア教育を推進していく。
⑬	学校は、子どもの自己実現に向けた教育を実践している。	肯定的（75%）、否定的（11%）、わからない（13%） ※今年度からの新規内容 中学部・高等部において否定的回答と「わからない」の回答の合計が25%を超えており、児童生徒一人ひとりの自己実現に向けて、児童生徒本人や保護者との共有が不足していると考えられる。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら、将来を見据えた支援や指導について、懇談等で保護者との確認をより丁寧に進めていく。

⑭	在籍する学部において他校や地域との交流を積極的に進めている。	<p>肯定的 (72%)、否定的 (12%)、わからない (17%)</p> <p>※今年度から全学部での設問に変更</p> <p>-----</p> <p>高等部の肯定的回答が 58%だが、「わからない」の回答率も 22%が示され、保護者への周知が不足している状況にあると考えられる。高等部では今年度近隣の高校との交流の回数を少し増やしたが、計画や報告などの情報について保護者の方への発信が不足していたと考えられる。また、交流の対象になっていない生徒もいることや参加機会の偏りもあるので、全生徒が地域とともに学ぶ機会があるように既存の取り組みの仕方を見直していく。また今後の目的の持ち方や状況により交流校を増やすことも検討したい。</p>
⑳	学校の施設・設備等、学習環境面の改善に努めている。	<p>肯定的 (61%)、否定的 (19%)、わからない (20%)</p> <p>前年度肯定的 (65%)</p> <p>-----</p> <p>全学部で肯定的回答が 60%台を示し、施設等の状況に課題がある。安全安心な学習環境については、空調設備の改修や校舎内のスロープ設置、バリアフリー工事等順次進めているが、まだまだ改善できていない場所が多くあるためにこのような回答結果を得たと考えられる。毎月 1 度の安全点検以外だけでなく、適宜環境について把握を行っていき、改善に努めていく。</p>

(2) 教職員

・診断内容全項目の平均で 83.3%の肯定的回答を得られ、前年度の 74.4%から約 9%高い結果であった。24 項目で 80.0%以上の肯定的回答を得ているが、15 項目で 10.0%以上の否定的回答、そのうち 5 項目において 20.0%以上の否定的回答であった。回答が意味することを考察し、学校運営の改善や向上をさらに進めていきたい。

○肯定的回答 (A よくあてはまる・B あてはまる) が 80.0%未満で、否定的回答 (C あまりあてはまらない・D あてはまらない) が 10.0%以上の項目が 5 項目 (⑳㉑㉒㉓㉔) あった。

○前年度より 20%の上昇が見られた項目が 2 項目 (㉑㉒) あった。2 項目ともに前年度の文言を見直したこともあり、数値の上昇がみられたと考えられる。

番号	診断内容	分析・今後の取り組み
㉑	学校の施設・設備について、定期的に点検が行われている。	<p>肯定的 (73%)、否定的 (22%)、わからない (5%)</p> <p>※今年度から文言変更</p> <p>-----</p> <p>前年度の設問は「施設等の環境面の改善」であったが、今年度は施設等の状況を問うのではなく、「使用している施設等について定期的に点検を行っているか」に変更を行った。安全点検を毎月行っていることもあり、肯定率が大きく上昇している。しかし 80%を切った要因としては今年度空調の経年使用により、不具合の事象が起こったことが考えられる。設備の点検については、教職員全体で行い、安全安心な学校づくりを進めていく。</p>

⑳	各教科の備品や教材教具が適切に管理され、活用されている。	肯定的 (56%)、否定的 (40%)、わからない (4%) ※今年度から文言変更 前年度の設問は「教材の配置」であったが、今年度は「教材の管理」に変更を行った。管理については、教員一人ひとりの意識改革が必要で、各分掌や各学部で購入物品の整理及び管理のためのシール貼りを励行していく。教材整備については計画的な予算の運用を継続して取り組んでいく。
㉑	各分掌や各学部・学年間の連携が円滑に行われている。	肯定的 (72%)、否定的 (24%)、わからない (4%) ⇒前年度肯定的 (64%) 今年度運動場や校内の清掃活動を児童生徒が一緒になり取り組み、学部を越えて交流したこともあり、昨年度から8%の上昇が示されたと考えられる。但し否定的な回答もあるので、各部署間で更なる連携を進めていく必要がある。次年度も各学部や学年間の取り組みを進めていく。各分掌間の連携については、各分掌の課題についての他分掌と協議を行う場として「係会」を活用し、業務の遂行に結び付けていけるようにしていく。
㉒	校長は教育理念や学校経営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している。	肯定的 (49%)、否定的 (41%)、わからない (10%) ⇒前年度肯定的 (44%) 否定的な回答が多い結果となったが、学校経営計画作成にあたり、教職員の意見が反映できるように意見を募る取り組みを行っている。来年度の計画の作成に向けては、昨年度に比べて多くの意見の提出があった。
㉓	校内研修や実践研究が計画的に実施され教育実践に役立つ内容になっている。	肯定的 (72%)、否定的 (24%)、わからない (4%) ⇒前年度肯定的 (75%) 研修計画については、分掌等の各部署に確認しながら作成を進めている。次年度も今年度同様に計画を作成していく中で、各研修後に実施したアンケートでいただいた意見を参考にしていき、より学びある研修を実施していく。

(3) 児童生徒

- ・全 22 項目の質問で平均して肯定的回答は 80.2%であった。10.0%以上の否定的回答は 15 項目あった。10.0%以上の「わからない」の回答は9項目あった。今年度から児童生徒全員を対象に行い、回答が難しい場合の選択肢の「未回答」の回答は平均して 29.1%であった。次年度は、「未回答」の割合を下げられるように、文言を見直していきたい。回答が意味することを考察し、教育環境の改善や向上をさらに進めていきたい。

○肯定的回答 (A よくあてはまる・B あてはまる) が 80.0%未満で、否定的回答 (C あまりあてはまらない・D あてはまらない) が 10.0%以上の項目が 5 項目 (③⑤⑥⑫⑭) あった。

番号	診断内容	分析・今後の取り組み
③	将来の仕事について考える授業がある。	<p>肯定的 (63%)、否定的 (17%)、わからない (19%) ※小肯定的 (40%)、中肯定的 (60%)、高肯定的 (90%)</p> <p>小学部の「わからない」の回答が40%を示しており、小学部段階から仕事や将来に向けて考えられるように「当番」や「係」などの役割を日頃から取り組んでいく。また、キャリアパスポートを活用し、児童生徒が教員との対話を通して自分の将来や進路等について意識できる取り組みを次年度よりはじめ、全学部においてキャリア教育を推進していく。</p>
⑤	授業や行事で、近くの学校や地域の人と交流することがある。	<p>肯定的 (69%)、否定的 (17%)、わからない (14%) ※小肯定的 (80%)、中肯定的 (62%)、高肯定的 (70%)</p> <p>各学部で交流を実施しているが、児童生徒の学びと結び付けられていないように考えられる。交流当日だけではなく、交流の事前や事後の指導で、より子どもたちの成長につながるように取り組んでいく。</p>
⑥	学校は、タブレット端末を使ってわかりやすい授業をしている。	<p>肯定的 (77%)、否定的 (10%)、わからない (13%) ※小肯定的 (78%)、中肯定的 (84%)、高肯定的 (72%)</p> <p>タブレットを使用することにより、子どもたちの興味が広がったり理解が深まったりできるように、より分かりやすい授業に取り組んでいく。</p>
⑫	先生は、いじめについてわたしたちが困っていることがあれば、真剣に対応してくれる。	<p>肯定的 (75%)、否定的 (11%)、わからない (14%) ※小肯定的 (68%)、中肯定的 (78%)、高肯定的 (74%)</p> <p>子どもたちの話を丁寧に聞く姿勢と「いじめは決して許されない」ことについて、全学部で取り組んでいく。</p>
⑭	担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。	<p>肯定的 (72%)、否定的 (17%)、わからない (11%) ※小肯定的 (73%)、中肯定的 (76%)、高肯定的 (70%)</p> <p>担任以外にも相談できるように、教員1人ひとりが児童生徒へのコミュニケーションを大切に、他学年や他学部の児童生徒に積極的に関わっていく。</p>